

実施要領 様式11(第13条関係)
【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成19年11月12日

【評価実施概要】

事業所番号	292000023
法人名	株式会社リバース
事業所名	グループホームいきがいの里
所在地	東津軽郡外ヶ浜町字蟹田内黒山12-164 (電話) 0174-31-1105
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年8月19日

【情報提供票より】(平成19年7月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年10月20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 6人, 非常勤 8人, 常勤換算 6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	8,000 円	その他の経費(月額)	理美容代実費ほか 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	600 円	

(4) 利用者の概要(7月20日現在)

利用者人数	17 名	男性 5 名	女性 12 名
要介護1	4 名	要介護2	8 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 74 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	外ヶ浜町国民健康保険外ヶ浜中央病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して間もないホームであるが、看護師や准看護師、栄養士、社会福祉士等の専門職を配置しており、栄養士が利用者の好みや栄養バランス、カロリー等に配慮して献立を作成する等、職員個々がそれぞれの専門分野を活かして日々のケアを実践している。
「笑顔を絶やさず感謝の気持ちを込めて生きがいのある生活(暮らしを)」という理念を掲げており、毎朝の申し送りは理念が掲げられている玄関ホールで行う等、全職員への周知徹底に努めている。また、利用者一人ひとりの生活歴や得意なことを把握しており、利用者の得意なことは役割として促すほか、時には職員が利用者から教えてもらいながら作業を行うなど、理念の実践に努めている。
共用空間は広く、ソファや小上がりの畳等が設置されており、利用者は落ち着いて過ごせるほか、季節の花を飾る等、時季を感じてもらおう配慮も行われている。また、居室にもカラーボックスや写真立て等の馴染みの物品が持ちこまれており、一人ひとりにとって居心地の良い空間作りが行われている。

【特に改善が求められる点】

散歩時に住民との挨拶を交わしたり、花火大会の時には近隣の方が手伝いに来てくれる等、地域との良好な関係作りが行われているが、ホーム便りや運営推進会議等を活用して、より積極的に町内会や老人クラブ等との交流を図ったり、ボランティアの募集を呼びかけてはどうか。また、地域の学校等に実習生の受け入れを呼びかけてはどうか。
内部研修については年間計画を作成して取り組んでいるが、開設2年目を迎えるにあたって、研修主催団体に問い合わせたり職員の意向を聞く等の取り組みにより、外部研修についても年間計画を作成して取り組むことに期待したい。
職員の異動が利用者にも与える影響を認識し、異動時には職員間での引き継ぎは行われているが、今後は利用者や家族への説明も行うことに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価を実施するのは今回が初めてであるが、評価結果については全職員で検討する予定となっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ミーティング時を利用して、評価の目的や主旨等について管理者が全職員に説明しており、自己評価には全職員で取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、ホームが地域で果たす役割や事業内容等について説明し、委員から質問や要望等を出してもらい、ホーム運営に反映させている。また、役場職員や社協職員が委員になっており、地域との連携の取り方を話し合ったり、他のグループホームへの見学を会議のテーマとして取り上げる等の計画も立てられている。自己評価や外部評価の結果も報告予定となっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>利用者の日々の暮らしぶりは状態変化があった時は電話で報告している。今後はホーム便り等を活用して定期的に報告していくことに期待したい。ホーム内外の苦情受付窓口を重要事項説明書に明示したり、玄関に意見箱を置く等、家族の要望等を引き出す働きかけを行っており、家族から意見等が出された時には運営推進会議等で対応する仕組みとなっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームは町内の中心地区からやや離れた場所に立地しているが、運営推進会議の委員であり民生委員でもある町内会長を通してホームを理解してもらえるよう働きかけるほか、散歩時に住民との挨拶を交わす等、地域との関わりを深める取組みを行っている。また、花火大会の時に近隣の方が手伝いに来てくれる等の協力関係も築かれている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>理念は全職員で何度も話し合いを行って作成したものであり、理念を実現させるために利用者や家族の声に耳を傾け、その人らしい生活が送れるよう支援している。</p> <p>開設して初年度ではあるが内部研修計画を作成し、副施設長や管理者自らが講師となって職員の資質向上に努めている。また、近隣のグループホームとの交流を図り、得られた情報を日々のケアに反映させている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用希望者や家族が安心してサービスを開始できるよう、事前に見学に来てもらったり、質問には丁寧に答える等の対応を行っている。</p> <p>職員は、利用者の得意分野である調理の下ごしらえや食事の盛り付け、掃除、畑や花壇作り等を一緒に行っており、時には利用者に教えてもらいながら、利用者の喜怒哀楽を共有するとともに、支えあう関係を築くよう努めている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>利用者や家族の意向、職員の気づき等を反映させて作成した介護計画は、3ヶ月ごとに見直しを行うほか、状態変化等がある時には随時の見直しを行っており、現状に即した内容となっている。</p> <p>一人ひとりの希望に応じて買い物やドライブ等に出かけたり、利用者や家族が希望する医療機関での受診支援を行うなど、個々のニーズに応じて柔軟に対応している。</p> <p>重度化や終末期には対応していないが、日々の健康管理や急変時の対応等については家族との合意が図られている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>職員は、利用者の言動を否定せず、プライバシーや羞恥心に配慮した対応を行うとともに、一人ひとりのペースを尊重したケアを心がけている。</p> <p>消防署の協力を得ながら日中と夜間を想定した避難訓練を年2回実施しており、災害発生時にも消防署の協力が得られる体制となっている。</p> <p>栄養士の資格を持った職員が栄養バランス等を考慮した献立を作成するほか、食事や水分の摂取量を把握している。また、感染症に関する学習会を開催したり、対応マニュアルを作成中など、利用者の健康管理に努めている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解している。理念は職員で何度も検討を重ねて作成しており、「笑顔を絶やさず感謝の気持ちを込めて生きがいのある生活(暮らし)を」と掲げているが、地域密着型サービスの役割を反映させたものとはなっていない。	○	全職員で再検討を行う等、現在の理念に地域密着型サービスの役割を盛り込むことに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員に理念を周知し、共有化する目的で、朝の申し送りは理念が掲げられている玄関ホールで行い、自然と理念が目に入るよう工夫している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	散歩時に住民との挨拶を交わすほか、町内会長兼民生委員に運営推進会議のメンバーになってもらう等、ホームを理解してもらえるよう働きかけを行っており、花火大会の時には近隣の方が手伝いに来てくれる等の交流は図られているが、開設間もないこともあり、実習生やボランティアを受け入れる等の取り組みまでには至っていない。	○	更に積極的に町内会や老人クラブ等との交流を図ったり、ホーム便りを活用する等の取り組みにより、ボランティアの募集を呼びかけてはどうか。また、地域の学校等に呼びかけ、実習生の受け入れを検討してはどうか。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング時等を利用して評価のねらいや意義を全職員に周知し、自己評価には全員で取り組んでいる。また、今回が初めての外部評価であるが、評価結果についても全員で検討する予定である。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、委員には積極的に参加を促している。会議ではホームの現状を報告するとともに、委員からの質問や要望等を聞き、ホーム運営に反映させている。また、自己・外部評価の結果についても報告する予定である。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場にホームのパンフレットを配布するほか、運営推進会議に行政職員が参画しており、ホームの現状を理解してもらっている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	副施設長や管理者は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について研修を受講し、理解しているが、全職員が理解するまでには至っていない。	○	研修を受講した管理者が講師となって内部研修を実施したり、外部研修へ職員を派遣する等の取り組みにより、全職員が制度の概要を理解することに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者の指導により、職員は虐待について理解している。また、管理者は職員の日々のケアを観察し、虐待のないケアに努めるほか、虐待を発見した場合の対応方法等を全職員が理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書等を基に理念や方針などについて丁寧に説明を行っており、利用者や家族の反応を観察しながら進めている。また、退居時も十分に説明を行っており、必要に応じて退居先の情報提供等を行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理状況は領収書を添付して家族に報告している。利用者の状態変化等があった時にはその都度電話で報告しているが、定期的な情報提供や職員の異動について報告するまでには至っていない。	○	ホーム便りを活用したり、個々に宛てた手紙を送付する等、定期的に利用者の暮らしぶりや健康状態等を報告してはどうか。また、職員の異動があった時にはその都度報告することに期待したい。
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時や電話等で家族の意見を聞くほか、ホーム内外の苦情受付窓口を重要事項説明書に明示している。また、玄関に意見箱を設置し、いつでも家族が要望等を話せるよう配慮している。家族から意見等が出された時には運営推進会議等に対応する仕組みとなっている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動により利用者への影響が少なくなるよう、職員間での引き継ぎは行っているが、利用者への説明を行うまでには至っていない。	○	今後は、異動する職員や新任の職員について利用者にも十分説明することに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修について計画を立て、月1回は認知症やケアの方法等をテーマに実施している。外部研修に職員を派遣しており、受講後は報告書を提出して報告会を行い、全職員に周知しているが、開設1年未満ということもあり、外部研修に関する年間計画を作成するまでには至っていない。	○	これまでの研修主催団体に問い合わせたり、職員の意向を聞きながら、今後は外部研修についても年間計画を立てて取り組むことに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の地域のグループホームとの交流が図られており、得られた情報を日々のケアに反映させている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者や家族が安心してサービスを開始できるよう、事前に見学に来てもらったり、質問に丁寧に答える等の対応を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が得意とすることは役割として行ってもらったり、時には職員が利用者から教えてもらう等、利用者と職員が協同しながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や日々の言動、面会時等を活用して利用者や家族の希望や意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には利用者や家族の意向を聞き出すよう取り組んでいる。また、職員は日々の利用者の言動を観察しており、全体ミーティングで気づき等を出し合っ、具体的な計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヵ月毎に見直しを行うほか、状態変化等がある時には随時の見直しを行っている。見直し時には利用者や家族の意見を聞くように努めており、現状に合わせた介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一人ひとりの希望に応じて買い物やドライブに出かけるほか、通院時の送迎を行う等、利用者や家族の意向にそうよう柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受診状況を入居時等に把握しており、利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、協力医療機関も確保しており、いつでも相談することができる。受診結果はその都度電話等で家族に報告しており、共有を図っている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアに対応しておらず、その旨について入居時に利用者や家族に説明している。日常的な健康管理や急変時の対応については医療機関や家族と話し合い、意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言動を否定することなく、利用者の話に耳を傾けるとともに、プライバシーや羞恥心に配慮した対応に努めている。また、職員は個人情報保護法について理解しており、個人に関する記録は事務室に保管する等の配慮が行われている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等、利用者の言動を急かすことなく、個々のペースに合わせ、利用者の訴えを優先した対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員に栄養士がおり、利用者の好みを考慮して献立を作成している。また、個々の力量に応じて調理の下ごしらえや食器洗い、盛り付け等を手伝ってもらっている。職員は利用者のそばに座り、食べこぼし等へのさりげないサポートを行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回の入浴となっているが、希望に応じて柔軟に対応している。入浴時は個々の習慣を把握し、見守り等の支援を行っている。また、利用者の羞恥心等にも配慮している。入浴を拒否する利用者には声がけする職員を変える等の工夫を行い、無理強いすることなく入浴を促している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意なこと等を把握しており、それが役割や楽しみにつながるよう、個々に応じて畑や花壇の手入れ、食事準備、掃除等を促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を聞きながら、隣町のスーパーやドライブ、散歩等に出かけている。また、車椅子の利用者も一緒に外出できるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会を重ね、拘束のないケアの実践を心がけており、今までは拘束は行われていないが、やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備えて、理由等を記録する様式などを整備するまでには至っていない。	○	やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備え、拘束の理由や期間、方法等を記録する様式を整備するとともに、家族の同意を得る体制を整備することに期待したい。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は施錠による弊害を理解しており、玄関は日中は施錠していない。外出傾向を察知できるよう見守りを行っており、察知した時には一緒に外出する等の支援が行われている。また、無断外出時に備えて住民に協力を呼びかけており、連携が図られている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、日中と夜間を想定した避難訓練を年2回実施するほか、災害時には消防署の協力が得られるが、食料や飲料水等の備蓄品を用意するまでには至っていない。	○	災害時に備えて、数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等の備蓄品を用意してはどうか。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持った職員が栄養バランスや摂取カロリーに配慮した献立を作成している。また、水分や食事の摂取量を把握して個人記録に記入し、利用者の健康管理に努めている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	月1回、感染症に関する学習会を実施している。感染症に関する情報を収集し、必要に応じて家族等に周知するほか、対応マニュアルを作成中である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間である居間は広く、ソファやテーブル、椅子、小上がりの畳等が設置されている。職員の会話のトーンやテレビの音量は適切であり、日射しの強さはカーテン等で調節しているため、落ち着いた空間となっている。また、季節の花等が飾られており、時季への配慮も行われている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでもらうよう家族等に働きかけており、カラーボックスや写真立て、人形、鏡台等の馴染みの物が持ち込まれている。		

※ は、重点項目。